

令和5年度(2023年度)
文化行政の概要

文化振興施策の総合的な推進

文化振興条例および文化振興基本方針(第3次)に基づき、文化振興施策の総合的な推進を図る。

文化振興条例

文化の振興に関する基本理念、県の責務、基本的施策等を明示するとともに、文化振興基本方針の策定について定める。

〔策定経緯〕 平成13年(2001年) 12月 文化芸術振興基本法制定
平成19年(2007年) 9月 「滋賀の文化振興のあり方」提言
平成21年(2009年) 7月 「滋賀県文化振興条例」制定
平成23年(2011年) 3月 「滋賀県文化振興基本方針」策定

滋賀県障害者文化芸術活動推進計画

障害の有無にかかわらず、文化芸術活動を通じて、自分らしく活躍できる共生社会の実現に寄与する施策を総合的かつ計画的に推進。

- 計画期間:令和2年度(2020年度)から令和5年度(2023年度)
- 基本目標:多様な人びとが支えあうことにより、障害の有無にかかわらず誰もがともに、多彩な文化芸術活動に親しみ、活躍する環境の実

現

●施策の展開: 親しむ	障害者が文化芸術を鑑賞し、創造し、参加する機会の充実
つなぐ・支える	障害者が文化芸術活動を通じて、自らの能力を最大限発揮し、障壁なく社会参加できるよう支援するための「人」や「場」づくり
活かす	障害者が創り出す作品等を滋賀県の誇りうる魅力として国内外に発信するとともに県民の理解の一層の促進

障害者の文化芸術活動を支える拠点のあり方等に関する検討懇話会

- 誰もが文化芸術活動を楽しめる拠点や支援する人が集える拠点となる機能を有する「場」の構築に向けて、学識経験者等による懇話会を開催。(R2.8～R3.3)また、第2期計画の策定に向けて、懇話会を開催。(R5.3～)
- 県は、地域拠点(市町の文化施設等)と連携したプログラムづくりや演劇関係者を対象とした研修やバリアフリー演劇祭を開催。

文化振興基本方針

人口減少・高齢化の進行や新型コロナウイルス感染症の影響等、社会情勢の変化を踏まえ、令和3年3月に「滋賀県文化振興基本方針(第3次)」を策定。

- 取組期間:令和3年度(2021年度)から令和7年度(2025年度)
- 位置づけ:条例第4条に規定する文化の振興に関する基本的な方針
文化芸術基本法第7条の2に規定する地方文化芸術推進基本計

基本目標 「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る」

施策の方向性

- 1 県民誰もが文化芸術に親しみ、多様な主体や世代等がつながる場をつくる
- 2 文化芸術をつなぎ支える人材や文化芸術の創り手や継承者を育む
- 3 文化芸術の多様な価値を地域づくりや他分野に活かし、活力ある滋賀を創る

施策の柱	重点施策
1 場をつくる	1 誰もが文化芸術に親しめる場の提供 2 多様な主体がつながる文化芸術活動の促進
2 人を育む	3 文化芸術をつなぎ支える人材の育成・確保 4 文化芸術の創り手や継承者の育成・支援
3 地域や社会に活かす	5 地域で育まれてきた文化的資産の発掘・保存・活用 6 文化芸術と他分野との有機的な連携の促進

施策横断プロジェクト
滋賀の美の魅力発信

施策展開の視点
「つながる」

文化芸術によって、人、地域および世代等のつながりが生まれるよう、施策を展開

推進体制

多様な主体とのつながりによる連携・協働の推進
(文化団体、民間団体、文化施設・教育機関、市町、国、他の地方公共団体等)

施策の柱1 場をつくる

文化芸術に親しめる場をつくることで、誰もが文化芸術に居場所や生きがいを見いだせ、多様な主体や世代等による交流や相互理解が進むことを目指す。

滋賀県芸術文化祭

県民の文化芸術に関する意欲的な公演および創作発表を奨励するとともに、文化芸術に親しみ鑑賞する機会を広く県民に提供することにより、県民文化の高揚を図ることを目的として、昭和46年から「滋賀県芸術祭」を開催。(平成12年度から「滋賀県芸術文化祭」に名称変更。)令和5年度で53回目となる。

○主催:

滋賀県、滋賀県芸術文化祭実行委員会(各県域文化団体の代表、市町教育長の代表等で構成)、県教育委員会、(公財)びわ湖芸術文化財団

○実施事業:

<オープニングイベント> (実施日)8月26日(土)
(会場)栗東芸術文化会館さくら
(内容)0歳児からのコンサート
文化団体によるパフォーマンスステージ
文化団体によるワークショップ等

<主催事業>

●美術展覧会:(展示期間)12月7日(木)~12日(火)(前期:工芸・書)
15日(金)~20日(水)(後期:平面・立体)
(会場)滋賀県立美術館
(内容)「平面」「立体」「工芸」「書」の4分野

●写真展覧会:(展示期間)10月17日(火)~22日(日)
(会場)滋賀県立美術館
(内容)単写真・組写真

●文学祭:(作品募集)7月1日(土)~8月31日(木)
(表彰式)11月23日(木・祝)
(会場)滋賀県立男女共同参画センター
(内容)小説・随筆・詩・作詞・短歌・俳句・川柳・冠句の8分野

<参加事業> 芸術祭開催期間中に、市町、学校、文化団体、企業等が自主的に実施する芸術文化事業で、芸術文化祭の趣旨に沿ったものとして実行委員会が承認した事業。



びわ湖ホール舞台芸術体験事業(「ホールの子」事業)

県内の子どもたちが優れた舞台芸術に触れる機会を提供するため、県内小学生等をびわ湖ホールに招き、オーケストラとびわ湖ホール声楽アンサンブルによる音楽公演を実施する。

○公演の概要:

- 対象…県内小学校(国市町私立)、特別支援学校、各種学校(一般教養)、適応指導教室
- 内容…びわ湖ホール声楽アンサンブルとオーケストラによる音楽公演(約60分間)

○交通費の補助:

次の各号の経費に対して実費相当額を補助する。

- (1)バス等の借り上げに要する費用および有料道路の通行料金
- (2)児童生徒が電車、路線バス等の公共交通機関を利用する際の運賃

○参加人数:

年度	学校数	児童生徒数
平成28年(2016年)	115校	8,014人
平成29年(2017年)	121校	8,194人
平成30年(2018年)	124校	8,544人
令和元年(2019年)	137校	10,007人
令和2年(2020年)	中止	中止
令和3年(2021年)	103校	7,153人
令和4年度(2022年)	142校	9,853人
令和5年度(2023年)(見込み)	181校	11,500人



今年度の様子



●令和4年度 市町等別内訳

大津市16校1,948人、彦根市13校1,061人、長浜市12校638人、
近江八幡市5校318人、草津市12校1,413人、守山市3校256人、
栗東市7校517人、甲賀市12校578人、野洲市5校367人、湖南市3校192人、
高島市13校437人、東近江市11校568人、米原市5校258人、日野町4校287人、
竜王町2校113人、愛荘町2校166人、豊郷町2校71人、甲良町1校35人、
県立7校367人、国立2校225人、各種学校1校15人、教育支援センター4教室23人

施策の柱1 場をつくる

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

独自の自主制作による創造活動を基礎にしながら、県民をはじめ多くの方々に国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わえるよう、多彩なジャンルで国内外の優れた公演を開催する。

◆施設概要◆(平成10年9月5日開館)

- ◇ホール ・敷地面積 20,000㎡(大津市から借地)
- ・建築面積 13,960㎡ ・延床面積 28,940㎡
- ・客席数 大ホール1,848席、中ホール804席、小ホール323席
- ・その他 リハーサル室、練習室3室、レストラン等
- ◇駐車場 ・敷地面積 9,485㎡(県有地)
- ・駐車台数 普通自動車849台、バス3台程度



びわ湖ホール管理運営委託(指定管理)

<指定管理者>
公益財団法人びわ湖芸術文化財団

◆びわ湖ホールの主な事業◆

オペラ	オペラへの招待「フィガロの結婚」(10月7～9、14～16日)、「天国と地獄」(12月21日～24日)、開館25周年記念 オペラ「ガラ・コンサート」(9月17日)、プロデュースオペラ「ばらの騎士」(3月2日、3日)
オーケストラ	ジルヴェスターコンサート(12月31日)、マラー・シリーズ(8月26日)、子どものための管弦楽教室(3月17日)
室内楽	ピアノ・ストーリー クララ・シューマンとヨハネス・ブラームス 「音符に愛を閉じ込めて」(1月14日)、室内楽への招待(11月5日)、びわ湖の午後シリーズ(2公演)、気軽にクラシック(4公演)
ダンス	バットシェバ舞踊団「オハッド・ハナリン」
演劇・古典芸能	木ノ下歌舞伎「糸井版摂州合邦辻」(7月1日)、野村万作・野村萬斎狂言公演(3月20日)、二兎社公演(2月10日)
音楽祭	びわ湖の春 音楽祭2023(4月29日、4月30日)
普及事業	びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！(6月1日～3日、6日～9日(3日は一般公演)、学校巡回公演、ふれあい音楽教室
専属声楽アンサンブル	定期公演、美しい日本の歌、県内巡回オペラ「泣いた赤鬼」

滋賀県立文化産業交流会館

県立文化施設における北の拠点として、地域や施設の特徴を活かし、優れた舞台芸術の創造や文化、産業の振興を図る。また、公益財団法人びわ湖芸術文化財団法人本部地域創造部を拠点にして、県内の文化ホールや地域等と連携協働し、全県域を対象とした特色ある滋賀の文化・芸術振興の推進を図る。

◆施設概要◆(昭和63年4月22日開館)

- ・延床面積 10,561.04㎡
- ・客席数 イベントホール2,000席(36m×38.8m)、小劇場203席
- ・その他 練習室(2室)、会議室(5室)、パスポート窓口、びわこ文化センター、SOHOビジネスオフィス



文化産業交流会館運営委託(指定管理)

<指定管理者>
公益財団法人びわ湖芸術文化財団

◆文化産業交流会館の主な事業◆

公演制作	長栄座夏のフェスティバル(8月5日～12日) 開館35周年記念事業 スティーブ・ライヒ/ドラミング 「湖国が生んだ打楽器奏者の協演」(9月9日)
人材養成	次世代育成ユースシアター事業 邦楽ミュージカル(12月17日) 古典芸能キッズワークショップ、箏曲ジュニア・アンサンブル(7月～11月) 邦楽専門実演家養成事業(11月～2月)
普及啓発	滋賀県次世代創造発信事業「和のじかん」(10月～翌年2月)
産業振興	ビジネス・カフェ in 文化産業交流会館(開催時期未定) 近江のあたらしい伝統産業展(8月5日、8月6日)

◆地域創造部の主な事業◆

地域連携	びわ湖・アーティスト・みんぐる2023(10月) アートコラボレーション事業(6月～翌年3月)
文化情報の提供	湖国文化情報「れいかる」の発行 年5回発行、30,000部 / 回、県内約500か所の公共施設等に配置 湖国文化誌「湖国と文化」の提供 年4回発行、3,000部 / 回、うち、420部を県内外図書館、大学等に配布

施策の柱1 場をつくる

滋賀県希望が丘文化公園

希望が丘文化公園は、琵琶湖東南部に位置する丘陵地で、野洲市、湖南市、竜王町にまたがり、東西4km南北1kmにわたる416haの広大な公園であり、園内にあるスポーツ施設、青少年宿泊研修所、野外活動施設等を管理運営し、スポーツ・レクリエーション活動、自然体験活動等の主催事業を行っている。

◆施設概要◆(昭和47年4月開設)

スポーツゾーン

スポーツ会館、陸上競技場(8レーン)、球技場、野球場、ソフトボール場、テニスコート(屋内:人工芝3面、屋外:人工芝12面、ハード2面)、草野球場、ピクニックランド(13サイト)、フィールドアスレチック、グラウンドゴルフ場(32ホール)、芝生ランド、子どもひろば、グリーンアドベンチャー、サイクリングロード

野外活動ゾーン

野外活動センター、キャンプ場、ロッジ、パートセンター、オリエンテーリング雨天活動場

文化ゾーン

青年の城(最大 360名宿泊可能)、多目的広場、桜の森、ファイヤー場、ウォークラリー、オリエンテーリング、ディスクゴルフ、サイクリングロード



球技場(R3年3月改修完成)

希望が丘文化公園管理運営委託(指定管理)

<指定管理者>

公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園

◆主な事業◆

自然を体験し楽しみながら学ぶ場の提供	希望が丘里山楽校(5月) 希望が丘夏休み自然塾(7月) 希望が丘冬の林間スクール(1月)
交流・憩いの場の提供	希望が丘新緑祭(5月) 希望が丘ふれあい祭(11月) 希望が丘スプリングフェスティバル(3月)
スポーツ健康づくり	希望が丘ハイキング(4月、6月、10月、3月) 滋賀県スポーツ少年団サッカー交流大会(6月) BIWAKOクロカン2024(2月)
社会教育・生涯学習の支援	希望が丘アウトドアスクール(通年) クラフト&フィールドゲーム事業(通年)



陸上競技場(R3年12月改修完成)

施策の柱2 人を育む

文化芸術を企画・総括するアートマネージャー、地域や学校等と芸術家等をつなぐコーディネーター、文化ボランティアなど、文化芸術を県民や社会とつなぐ人材や文化芸術の創り手や継承者の育成、確保を目指す。

文化芸術活動継続支援事業(施設使用料助成)

感染防止対策を行いながら、文化芸術公演等を実施する活動者に対し、施設使用料を補助する。

※感染症法上の位置づけが5類に変更になって以降の感染拡大予防ガイドライン等の状況を踏まえ実施予定。

【対象となる施設イメージ】

- 県内の公共施設(公民館等を含む)
- 利用料金が公表されている民間施設
- 国内のギャラリー

【令和4年度の実績】

- 交付件数: 431件
- 音楽や舞踊、伝統芸能など様々な公演等に活用



滋賀県文化賞

本県の文化の高揚に貢献し、その功績が顕著な者を顕彰するため、滋賀県文化賞等の表彰を実施。(昭和51年に制度創設、令和5年度で48回目。)

表彰の区分: 文化賞、文化功労賞、文化奨励賞、次世代文化賞の4つ

従来は推薦者を県内の市町、県内大学、文化団体等に限定していたが、候補者の確保・充実のため、平成30年度から推薦者を限定しないこととしている。

◆令和4年度 滋賀県文化賞等受賞者◆

※下段は受賞部門

滋賀県文化賞	沼尻 竜典 芸術文化(音楽)	
滋賀県文化功労賞	酒井 清裕 郷土文化(文化財)	三役修業塾 郷土文化(郷土芸能)
	水口まつり保存振興会 郷土文化(郷土芸能)	
滋賀県文化奨励賞	今村 翔吾 芸術文化(文芸文学)	田中 哲也 芸術文化(陶芸)
	唐仁原 希 芸術文化(美術)	
滋賀県次世代文化賞	落合 真子 芸術文化(音楽)	船越 亜弥 芸術文化(音楽)



令和4年度贈呈式の様子

施策の柱3 地域や社会に活かす

文化芸術を国際交流や観光、産業、福祉、教育等と連携させ、文化芸術が持つ多様な価値を地域づくりや経済の活性化等に活かすことを目指す。

文化芸術と他分野との有機的な連携の促進

滋賀県文化芸術ポータルサイト「SHiGA Art」

<概要>

文化活動者の情報、県内の文化施設や行政からの支援情報など、文化芸術関係者を支援する情報を掲載し、ひいては県民等の鑑賞機会が増えることを目的に、文化芸術ポータルサイトを開設した。

<掲載情報例>

- ・県内のイベント情報(県主催事業、県後援事業など)
- ・県ゆかりのアーティスト情報
- ・県内の文化施設情報



近江文化発信・発信事業

滋賀ゆかりの文学作品等を通じて、県民が滋賀の歴史・風土・文化等を改めて認識し、地域への愛着を深めるとともに、その魅力を発信する。

<概要>

令和5年度は司馬遼太郎氏生誕100周年を記念に司馬遼太郎作品を通じて滋賀県の魅力を再発見できる朗読会を開催する。

題材:『関ヶ原』(予定)

会場:大津市伝統芸能会館(予定)

日程:令和5年10月14日(土)(予定)



令和4年度事業①
滋賀県高校生俳句コンクール



令和4年度事業②
近江まちゃんぽ

施策の柱3 地域や社会に活かす

障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくり事業

市町の文化施設と連携した誰もが楽しめる文化芸術プログラムを開催する。

- 市町の文化施設等と連携した、誰もが楽しめる文化芸術プログラムの実施
(例)鑑賞サポート付き演劇プログラムなど
- 舞台の字幕表示や受付の筆談対応等、障害のある観客を想定した取組(情報保障)の方法の発信
- 演劇関係者を対象とした研修やバリアフリー演劇祭の開催



これまでの取組の様子



字幕メガネを付けた
演劇鑑賞

滋賀次世代文化芸術センター「文化芸術連携授業」

県内小中学校等の児童・生徒などに対し文化芸術に触れる体験授業を実施している「滋賀次世代文化芸術センター」の運営を支援し、「文化芸術連携授業」などを実施。

- 活動内容:陶芸体験、音楽プログラム、茶道体験など
- 活動実績:令和4年度 24校4,615名、令和3年度 26校4,679名

美ココロ・パートナーシップ事業

多様な環境下にある子どもたち(不登校や適応指導教室等に通う児童・生徒)を対象に、文化芸術体験プログラムを提供し、様々な芸術に触れる機会を提供。また、講師となる若手芸術家を「美ココロ・パートナー」として育成する取組を支援。

- 活動内容:陶芸体験、音楽プログラム、茶道体験など
- 活動実績:令和4年度 15校305名、令和3年度 27校245名



施策の柱3 地域や社会に活かす

文化財が持つ魅力に光を当て、地域の人々や支援者等とともに保存や幅広い活用に取り組むことで、文化財やそれらを育んできた地域に対する人々の理解や関心を深め、文化財を未来に着実に継承することを目指す。

文化財保護助成事業・指定文化財管理事業

国・県指定文化財の所有者または管理団体が実施する保存修理事業、管理事業等に対して、滋賀県文化財保存基金等を利用して助成。

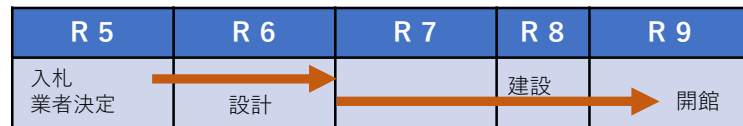
文化財保存修理受託事業

国・県指定文化財建造物の保存修理事業を、滋賀県が所有者から受託し、計画的に保存修理を実施。

- ・国宝延暦寺根本中堂ほか1棟保存修理事業
- ・重要文化財聖衆来迎寺客殿保存修理事業
- ・重要文化財不動寺本堂保存修理事業

(仮称)新・琵琶湖文化館整備推進事業

(仮称)新・琵琶湖文化館の令和9年度中の開館に向け整備を推進する。



“未来につなぐ”滋賀の文化財普及座事業

- ・県主催文化財講座のオンライン配信
- ・県内高校等での出前講座の開催
- ・無形民俗文化財の魅力発信(PRパンフレットの制作、配布)

「彦根城」世界遺産登録推進事業

R5	事前評価制度の活用(R5.7.4 文化庁発表) 9/15国からユネスコに申請書提出 ⇒以降、諮問機関イコモスとの対話
R6	10/1事前評価結果受理 ⇒結果を反映した推薦書素案の作成
R7	国内推薦の決定 ⇒国からユネスコに推薦書提出
R8	イコモスの現地調査
R9	世界遺産登録

※R6以降は最短のスケジュール

「幻の安土城」復元プロジェクト事業

安土城の実像を明らかにし、目に見える形で復元し安土城の価値・魅力を発信。

- ・安土城の実像解明と保全
特別史跡安土城跡調査整備事業の開始(天主台の発掘等) ほか
- ・安土城見える化の検討
デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化実施設計の作成、
安土城考古博物館の展示改修 ほか
- ・復元に向けた機運醸成

新 文化財の子はぐくみ事業

- ・親子で文化財探検隊！
親子向け文化財の現地見学会、商業施設等での体験イベント等
- ・お家でいつでも文化財！
文化財の裏側、祭りの準備等を映像化し、文化財の魅力を発信

「近江の城」魅力発信事業

県内外に「近江の城」の魅力を発信し、城郭を基点に県内周遊を促す。

- ①届ける魅力「近江の城」
 - ・東京シンポジウム、東京講座の開催
 - ・全国イベント(大阪、横浜)への出展
- ②エコで楽しむ「近江の城」
 - ・出張！お城EXPOの開催
 - ・連続講座「近江の城郭」探訪会の開催
 - ・同上探訪リーフレットの作成、探訪動画の制作、YouTube配信
 - ・無料スマホアプリ「ニッポン城めぐり」の活用(登録30.5万人)
- ③歩いて楽しむ「近江の城」
 - ・BIWA-TEKUアプリの活用(登録4.5万人)
 - ・健康しが探訪会の開催
 - ・同上探訪リーフレットの制作、動画の制作、YouTube動画配信



施策横断プロジェクト 滋賀の美の魅力発信

『美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に』というコンセプトのもと、令和3年6月に再開館した県立美術館を拠点として、美術館の活動と、滋賀の各地域に存在している多様な美の魅力を伝える活動に関連付け、多くの方々の共感・参画を得ながら発信する。

滋賀ならではの各地の多様な美の魅力を伝える

美の資源活用推進事業

県内各地にある滋賀ならではの文化的資源を活用・発信する取組を支援し、その成果について発表をおこなう。

○事業対象者：県内に所在または活動の拠点を有する団体、市町、等

◆参考実績：令和5年度「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト推進事業実施団体一覧

団体等名	所在地
AT ARTS	長浜市
石部芸術祭実行委員会	湖南市
近江の祭り研究所	野洲市
湖北アーカイブ研究所	長浜市
電車と青春21文字プロジェクト	大津市
BIWAKOアーティストインレジデンス実行委員会	大津市
文化遺産としての松明を次世代へ贈る会	近江八幡市

福祉の現場から生まれた造形の紹介

県内外の多くの方に、滋賀の福祉の歴史を背景に育まれた造形の魅力に出会っていただけるよう、県内の宿泊施設等において、作品の展示を行う。

◆令和5年度作品設置先◆

設置先	所在地
里湯昔話雄山荘	大津市
おごと温泉びわ湖花街道	大津市
料理旅館塩野温泉	甲賀市
尾上温泉 旅館 紅鮎	長浜市



里湯昔話雄山荘での展示

滋賀県立美術館の活動



展覧会の開催

滋賀にゆかりの作家や、特徴的なコレクションを軸に多彩な切り口で展覧会を開催。

◆令和5年度展覧会◆

展覧会名	開催時期
小倉遊亀と日本美術院の画家たち展	4/29-6/18
今森光彦 里山 水の匂いのするところ	7/8-9/18
“みかた”の多い美術館展	10/7-11/19

<常設展> コレクションを活用し、名品を選びすぐった「SMoAコレクション」や、小倉遊亀作品にいつでも出会えるコーナーなどを通年展示



教育・交流事業の展開

①学校・教育委員会との連携による美術教育プログラム

- ・学校団体による展覧会鑑賞プログラムの実施
- ・県内各地の学校における出前授業やワークショップの実施

②様々なニーズや世代に対応する鑑賞・体験プログラム

- ・年齢段階や障害の有無など多様な属性に対応したプログラムの検討・実施
- ・展覧会のテーマに関連した講座等の実施

③館内や地域での活動のパートナーとなるボランティア制度

- ・美術館の活動のパートナーとして、県民と美術館をつなぐボランティアの募集・養成

■ワークショップシリーズ「美の糸ロ・アートにどぼん！」

美術館と県立図書館・びわこ文化公園管理事務所・埋蔵文化財センター、県内の団体・施設と連携し、親子でアートをはじめ様々な体験を楽しめる、ワークショップを年間を通じて開催。

